

## ○ 関係団体ヒアリング結果

---

清須市では、障害者関係団体に対して行なった、ヒアリングの際に出された主な意見は次のとおりです。

### <調査団体名>

- 清須市身体障害者福祉協会
- 手をつなぐ親の会
- 尾張中部精神障がい者家族会 れんこん
- ネットワーク花ばたけ
- 尾張中部障害者就業・生活支援センター

## 活動・事業上の課題

### 会員数減少・高齢化

- 会員の高齢化、死亡、若い世代が入らない → 会員数の減少に繋がる
- 会員の高齢化 → 役員のなり手不足に繋がり、役員一人ひとりの負担の増加。

### 交流・繋がり

- 親同士の交流、情報交換を目的として開催しており、行政関係者、事業所の職員さん、支援者さんなどにもご参加していただけていますが、教育関係者にご出席いただけていない。
- 母子通園に通園している母親方から、「教育センターからの巡回訪問」や「職員研修会」を希望されている。
- 思春期以降の年齢の高い方対象の講演会を企画して行いたいと思っているが、市内の就労支援事業所などを利用している当会員以外の方との繋がりを持つことが出来ず、福祉支援者の参加も少なく残念である。

### 障害に対する理解等

- 団体側から積極的に情報発信しにくい → 本人・家族も受け入れてない人がいるため。
- 障害に対する本人、家族、社会の理解不足。
- 相談の件数に対応できるだけの人員がいない。

## 課題解決のために考えていること・必要なこと

### 周知

- 市の窓口での周知 → 手帳交付時に入会案内を渡しているが、入会には繋がらず。今後は再交付の人にも渡せるとよい。

### 交流・繋がり

- 若い世代や、他団体との交流 → 交流を図り、運営に協力してもらおう。
- 親と学校との関係をつなぐ要である学校教育課の方に会に出席していただき、相互の理解を深めたいと思うので、今後も学校教育課への働きかけを続けていきたい。
- 当団体は親グループ同士を繋ぐ窓口の役割を担っているの、そこを活かして他の団体と共同で活動したい。

### 連携

- 愛知県総合教育センターと連携し、悩みを持つ保護者に教育センターを紹介していただきたい。
- 聴覚障がい児が市内の小中学校に入学できる準備体制を考えるには、聾学校との連携、見学、教育交換制度等もご検討いただきたい。

### 相談窓口設置

- 教育部には、「専門の教育相談窓口を開設」「専門の職員」に対する予算をご検討いただきたい。  
(参考：豊田市)
- 就学、就労、不登校など子どもたちの年代を問わず相談があるのは、教育をはじめ横の連携「総合的な相談窓口」が無いためなので、開設をお願いしたい。

### その他

- 職員のスキルアップを図り、専門性を高める。

## 不足していると思われるサービス

### 移動支援

- 移動支援 → 朝の通勤・通学には利用できない。
- 移動支援を利用したいが、同性の男性のヘルパーが不足しているため着替えが必要な場所の利用ができない。トイレなどの介助や見守りが必要な場合も躊躇すると思う。
- 名古屋市のような、通学の送迎支援が使えると本当に助かる。

### グループホーム・ショートステイ等

- 18才以上のサービスが全般的に少ない。(ショートステイ(児・者)、生活の拠点となるグループホーム、入所施設、日中一時支援など)
- グループホームを今よりも中度、重度の障がい者も利用できるように制度を見直してはどうか。

- レスパイトのできるショートステイ先、将来暮らせる場所、グループホーム等

### 就労関係

- 就労移行支援 → 2年間だけでは社会復帰に繋がらない。
- 就労継続支援と日中一時支援の同日併用の可能日数を増やしてほしい。
- A型の就労支援事業所が最近なくなり、B型の就労支援事業所も定員がいっぱいで個々に合った選択ができない。新たな事業所の開設を望みます。
- 精神障がいのある人が気楽に行ける場所
- 市内にある就労支援B型を精神障がいのある人も受け入れ可能に。
- 七彩工房は遠距離で行きにくい。

### 相談・情報提供

- 基幹相談支援センターの相談担当者には、愛知県教育センターを紹介するだけでなく相談者と一緒に同行する機会を与え、相談業務の質の向上に繋げてほしい。

### 保育所関係

- 保育園で障がい児を受け入れる態勢（保育士不足と経験・知識不足）
- 保育所等訪問支援はニーズがあるものの利用しにくいので改善してほしい。

## 障害福祉について最も課題と感じていること

### 相談窓口

- 困りごとがあった場合に、最初にどこに相談すればいいかわからない。障がい者・児の困りごとは、福祉、医療、教育など多くの分野が関わっている事が多い為、多くの情報を持ち、障がい者・児の不安や日常での困難さなどを理解し、各分野との連携の取れる窓口が必要。
- 障害福祉の窓口を、「乳幼児・保育・教育」の専門に相談できる窓口を予算を立てて開設して頂きたい。

### 連携

- 県センターと保育士さん、保健師さん、福祉窓口の担当者が繋がる事により、特別支援教育や障害窓口の情報、就労先等の情報や知識もつくので、県センターのほうからパイプを繋いで頂きたい。
- 未就学児～就労中の20才代になる本人とその保護者、その年代により欲しい情報は違う。地域の中で育ちあうにはどうしたらいいか。「家族・市民・企業・関係者・行政」が協働しネットワークで支える仕組みを作る必要があると思う。

### その他

- 親亡き後の本人たちの住居→グループホームの設置（清須市には少ない）、空家・社員寮の活用。
- 愛身連大会などへのバス送迎（公用車）の利用。

## 生活環境の整備

### 道路・施設整備

- 公共施設のトイレ整備 → 春日図書館（設備が整っているため）並みのトイレを増やしてほしい。
- 歩道の拡充 → 市内の道路は歩道が狭い。車道と歩道の段差をなくしてほしい。

### その他

- 就労継続支援の送迎にあしがるバスが使えると自立につながると思う。

## 情報提供の充実等

- 民生委員、町内会、ボランティア団体の巡回。
- 障がいの特性に合った情報を積極的に提供してほしい。
- 児童発達支援等の福祉サービスの利用の仕方や、入園・入学準備方法等の情報が、どこに聞けばいいかわからない。
- 職員さんに、親会の事業や定例会には、ご参加頂きたい。
- 医師会が発行している「障がい児者用の歯科診療所のパンフレット」や県センターの障害児相談窓口の資料を、困って悩んでいる家庭に配布して頂きたい。
- 成年後見制度については、話を1度聞いただけでは理解できない。制度の変更もあり定期的に勉強会を開き、自立した生活について考える機会にしたい。

## 防災、防犯等について

### 避難について

- 避難所 → 災害が起きても、避難所へは行かず、車での避難生活になるだろう。
- 福祉避難所の増設。安心して避難できる場所がないと家で留まる事になる。
- 福祉避難所の開設基準や要援護者名簿の活用方法等、災害時の障がい児・者と家族がどう動けばいいのかを具体的に周知してほしい。
- 避難場所には、聴覚障がい児者用にホワイトボードや、マークや光で合図や確認できる備品があるといい。
- 学校の施設が避難所になっている中、バリアフリー化、トイレ、階段に手すり、が欲しい。障がい児の通いやすい学校は防災の考え方にもつながります。

- 避難しない自宅での避難訓練を実施してほしい → 自宅での安否確認、食料・薬の確保等、自宅でどこまでできるのかを確認。

### 防犯について

- 防犯については、聴覚障害者の方々にも携帯電話に防犯ネット発信の登録をしてもらうなど、情報サービスをつないでほしい。
- 見守りの方に子どもや保護者からお礼をする機会を作ったり、清須市内で利用できる「きよす楽市券」をお礼として渡す。

### その他

- 緊急時の障がい者・児に対する支援の仕方を地域の自治会長等に知ってもらう。
- 市や災害ボランティアが中心になってHUGカード体験と併せて障がい者理解を深める機会を作ってはどうか。

## 差別の解消、権利擁護の推進及び虐待の防止

### 家族に対して

- 家族が抱え込まない → 市・サポセン等が訪問を行い、家族が相談しやすいような体制を。

### 学校との連携

- 差別解消を進めるために、小中学校での福祉教育に力を入れてほしい。単年度での実施ではなく継続した学習となるよう、教育と福祉が連携して行うこと。又、見えない障がい（知的・聴覚等）についての教育もしてほしい。
- 地域交流（支援校－地元小・中）を積極的にすすめてほしい。
- 小中学校で行われている福祉実践教室などでも生徒が興味を持てるような取組ができるのではないか。

### その他

- 精神障がい者への偏見がある → 時間はかかるが、認知度を上げ偏見を取り除くしかないのでは。
- 幼児健診、就園、就学前までに、保健師さんと連携も保ちながら、家庭と行政が寄り添い、子どもの事情を把握しながら、就園前には保育園とのパイプ役になって頂きたい。

## 自立した生活の支援・意思決定支援

- 家族へのケア → 本人だけではなく、家族も相談できる体制が必要。
- 地域移行の受け皿が少ない。
- 民間事業所が増え丁寧に個別支援計画を立てられているが、それが公的施設と共有できていない

ケースが多い。

- ショートステイは近隣市町の事業所しかなく、市内に利用できる事業所はない。

## 保健・医療

### 経済的負担

- 障害年金受給者の生活 → 3級受給者は生活が厳しい。何か援助があれば。
- 自閉症男児で多動性障害あり、病気で長期入院も大部屋では過ごせない為、個室を選ぶしかない。その負担は大きいので支援がほしい。

### 検診の拡充

- 18歳から40歳の間検診の拡充 → 市が積極的に行ってほしい。
- 3歳児検診だけでなく、5歳児にも検診を行ってはどうか。 → 早期発見に繋がる可能性あり。

### その他

- 地域内の医療機関の理解が少ない。
- 清須市内の障がい児者への診療所（研修終了後の協力医の紹介）
- 市内で障がい者に配慮した医療ができる病院・診療所・歯科・眼科・耳鼻科・訪問看護ステーションなど情報一覧がほしい。また、障がい者理解を深めるよう取り組んでほしい。

## 雇用・就業、経済的自立の支援

### 企業や行政との連携

- 商工会との協力 → 研修会の開催、飛鳥へ視察に来てもらう。企業と行政職員、親会等で会社見学・勉強会（懇親会）を開催してほしい。
- 障がい者雇用の促進に取り組んでほしい。相談支援事業所、就労移行事業所だけでなく、清須市産業課、商工会などが繋がりをもち取り組んでほしい。
- 障がい者の雇用促進を考えるならば、障がい者雇用推進セミナーの開催を考えてほしい。

### 精神障がい者への配慮

- 精神障がい者への配慮 → 同時に2つのことはできないので、配慮してほしい。
- 相談者の8割は精神障がいの方 → 社会として精神障がいの方を受け入れる体制の確保が必

### その他

- ジョブコーチ → 数日ではなく、長期でジョブコーチに指導してもらえると本人も長く続くのでは。
- 本人の特性に着目 → 指導員が本人の特性を見抜き、一般就労に繋げる。（手をつなぐ親の会）

- 支援方法 → 本人の働く意欲を一番に考えて相談を聞くことが大事。

## 教育について

### 学校環境について

- 小中学校にもクーラーをつけてほしい。熱中症が心配。
- 市内の保育園と同様に、たんぼぼ園でも給食を導入してほしい。
- 支援学級に必要な、自立につながる教具がそろっていない。

### 職員と親の話し合い

- 地元の小中学校、学校教育課の方に障がい児・者を持つ親の話をしっかり聞いて欲しい
- 職員間での内々の話し合いだけでなく、母親との話し合いや、実際に先生が児と交流することに、もっと時間を割いてほしい。

### 連携

- 小学校入学に際して、親が動かなければいけないことが多いが、情報が少なくて困る。保育園・小学校・教育委員会が連携してスムーズにいくようにサポートしてほしい。
- 「母子通園・保育園・幼稚園・学校」の連携と相談支援・保健師の繋がりができれば、障がいのある子どもは地域の学校への受け入れが、ゆるやかになる。

### 分けない教育

- 分けない教育 →なるべく普通の保育園に通わせるようにする。他の園児にも思いやりの気持ちが生まれるのでは。
- 共に育ち合う「みんなの学校」のように、障がいのある子とない子を分けなくて、同じクラスで教育を受けさせてほしい。

### その他

- 共生教育を行うことで、合理的配慮を学ぶ。
- 自立教育について → 学校で「働く」ことについて教えることができれば、自立への意識が出てくるのでは。
- たんぼぼ園での個別支援計画の立案にあたって、親の意見を聞き取るだけでなく、療育の専門的な視点やアプローチがもっと欲しい。
- 児童発達支援センターの設置を検討される際には圏域ではなく清須市で作ってほしい。
- 就学時検診に地域の小学校入学の希望がない場合でも来るようにいわれます。健診を受けるのに困難な場合はかかりつけの主治医の診断で済むようにしてほしい。

## 文化芸術活動・スポーツ等の振興

### 教室・講座開設

- 講座を開設してほしい。学生の時に部活動をして取り組んだスポーツを継続して地域の仲間たちと楽しむ場所が必要。大きな大会などにも出場する機会を与えてやりたい。(水泳、フライングディスクなど)
- スポーツ支援事業(気楽な)を開設して頂き、「愛知医療学院の学生さん」「障害者スポーツ指導者」等とのつながりを作っていただきたい。
- パラリンピック等競技がやってみたい人、少し難しいので風船バレーやストレッチやダンスなどルールの簡単な教室、プール教室を市で検討してほしい。生涯学習講座でできないだろうか、指導者は適任者の雇用をお願いしたい。

### 作品展示・販売

- 障がい福祉的な事業等で、「障がい者事業所の生産品」や「障がい児者を持つ親の作品」を展示及び販売等につなげて頂けると、地域の人との繋がりが出来ると思う。
- 行政が作る冊子などに障がいを持つ人の絵画作品を定期的を使用してはどうだろうか。社会参加できる方法の一つととらえて考えてほしい。

### その他

- きよすスポーツクラブの中に障がい者スポーツを取り入れて欲しい。
- 清須市はるひ美術館はすてきな施設なのですが障がいを持つ人の利用が少ない。療育手帳を持っている場合は付き添いも無料になり美術館は障がい児・者にも優しい施設として紹介してほしい。

## 関係団体との協力・連携について

- 一宮市の家族会を参考に → 市から委託を受けて週3回ピアサポート事業を行っている。
- 団体共催で映画鑑賞会を検討中 → プロジェクトチームを立ち上げる。市も積極的に支援してほしい。
- ワークシェアリング → 愛知医療短期大学と、ひきこもりの方の社会復帰に向けた連携をしている(4名利用中)
- 今回の支援事業やサービスなどの意見をまとめて行く過程で、連携とは集まってお互いを知り合うところから始めるべきだと思いました。団体同士も同じように知り合うところから始めれば良いと思います。



## 障がい福祉の向上のために行政に望むこと

### あしがるバス

- あしがるバス乗務員の障がい者対応について → 車いす介助等ができていないので、研修会等を開いてほしい。

### 雇用について

- 地域企業の障がい者雇用の促進（岡山県総社市『1000人雇用』参照）
- 企業に対して障がい者の能力について周知を促すような取り組みをしてほしい。

### その他

- 市長と懇談をしたい。（グループホーム誘致、あしがるバスのサービス向上、職員の車いす研修）
- 統合失調症、うつ、てんかんへの理解を深める啓発活動をしてほしい。
- 出生後から療育、入園、入学とステージがかわっても、切れ目のない支援が受けられるように態勢を整えてほしい。
- 県教育センターとの連携や講演会へのご出席もお願いしたい。

## 障がい福祉の向上のために地域に望むこと

- 高齢者だけでなく、若年世代が孤立しないような地域であってほしい。
- 障がいのある子の存在や、特別支援学級・特別支援学校の存在を、地域の人達にも知ってほしい。障がいがあるということは特別なことではなく、「あたり前にいる1人」として受け入れ、見守ってほしい。
- 市内には、知的障害者相談員さん、身体障害者相談員さんがいるが、広報だけの案内では、せっかくの良い相談員さんが広く伝わっていない。
- 地域にあった福祉の街づくりを一緒に考えてほしい。